

人文研紀要

第56号～第58号(2006年)

◆第56号—2006年(2006年9月発行 A5版322頁)

カール・シュミットとフーコー・プロイス —ワイマール憲法と反ユダヤ主義—	平山 令二
Lion Feuchtwangers Roman „Jud Süß“ in der deutsch-jüdischen Diskussion im ersten Viertel des 20. Jahrhunderts(2)	Mamiko IKENAGA
ラフィク・シャミ —変わるものと変わらぬもの—	鈴木 克己
ウィーン民衆劇と『ドナウ横断の夢』2	新井 裕
東アジアの竜退治(1) —ヤマタノヲロチの源流を求めて—	金光 仁三郎
『名無しの美丈夫』と『ヴィーガーロイス』 —2つの世界—	渡邊 浩司
Une devineresse musulmane et sa prophétie sur l'invasion chrétienne en Palestine dans l'histoire poétique de la croisade(2)	Naoyuki OGAWA
日本の絵画とヒルデガルト・フォン・ビンゲンの幻視 —比較文化研究がもたらすもの—	鈴木 桂子
Vida de Santo Domingo de la Calzada en teatro: su último milagro —13 años de historia del teatro popular “Los milagros del Santo”(1993-2005)—	Oscar Javier MEDOZA GARCÍA
Schmecken und Sehen im Zeichen der Leiblichkeit Gottes —Pneumatologische Aspekte der Philosophie Jacob Böhmes—	Hiroshi TOMITA
台湾客家語の表記システムについて	遠藤 雅裕
複文研究メモ(7) —文末名詞をめぐって—	野田 時寛
Mimicry, Performativity, and Equivocality : from Irigaray to Derrida	Akiko SHIMIZU

◆第57号—2006年(2006年9月発行 A5版283頁)

映画における語り手の問題 —『僕の彼女を紹介します』、『ビッグ・フィッシュ』、『フルタイム・キラー』—	伊藤 洋司
喜劇的な「英雄」の誕生 —『西の国の人気男』論—	木村 正俊
遅れの意識 —シルヴィア・タウンゼンド・ウォーナー『フォーチュン氏の奇想』を読む—	中和 彩子
『活火山の下』誕生の物語 —地獄編—	野呂 正
D. H. ロレンスの危機意識と方法	深澤 俊
ハーディの〈環境(エコ)テキスト〉 —詩群、そして小説『狂乱の群れをはなれて』	森松 健介
コウルリッジの『文学的自叙伝』を読む(その一)	笹川 浩
Early Kabuki and Early Music Observed with Reference to the Anglo-Japanese Contact(1613-1623)	Michio TOMINAGA
Robert Browningの“Pippa's Song”再考	岡地 嶺
Femininity (Un)Bound in Text and Modern Production	Ikuko KOMETANI
Brünn und Umgebung —die Wirkungsstätte des jungen Musils—Nachträge	Nanao HAYASAKA

◆第58号—2006年(2006年9月発行 A5版273頁)

平成期の市町村合併の行方	田野崎 昭夫
実在しないわたしと実在しない世界	岡山 敬二
レヴィナス —第三者の不在—	橋本 由美子
トクヴィルとライシテ・市民権 —時代錯誤的問題か	三浦 信孝
「認知心理学」から「文化心理学」へ向けて	兵藤 宗吉
近代移行期における朝鮮の女性教育論	李 榮娘
都の立地 —中国大陸の事例—	妹尾 達彦
津軽福島城跡の研究 —第6次発掘調査概報—	井出 靖夫
曹魏における刺史と將軍	森本 淳
再び明代北辺の「夜不収」について —衛選簿を手掛かりとして—	川越 泰博
—七世紀のイエメン・エチオピア関係と紅海情勢	栗山 保之